

# 地域包括ケアシステム その後

地域密着型通所介護運営推進会議資料

<デイステーション涼風が参加するシステム作り その後>

2019年11月9日

デイステーション涼風施設長 石井晴美

## 1. 本体の通所介護事業を通して

⇒連携連絡ノートの普及、社会参加と活動のための情報提供

- ① 連携ノート提供人数-おおよそ 21 名強(要介護、現行相当の方で提供していない方は 3 名)
  - ・要介護、現行相当の方でご家族や他事業所(他サービスを受けている人)との連携が必要な方に提供
  - ・要介護でも、お一人暮らしでご自分の生活を管理できている方には提供していない
- ② 提供している情報
  - ・集団訓練の時、その日のニュースなど、社会の動きに合わせて主な内容を話題にして提供
  - ・介護関係の講演会などあれば情報提供
  - ・市民ホールなどで適切な催しがあれば情報提供

⇒多職種への情報提供

- ・通所介護計画書やモニタリングの提供、電話やメール、ファックスなどによりこまめに実施

## 2. 介護予防教室と麻雀教室の開催(社協の「生き生きサロン」登録)(介護予防と交流の機会の提供)

- ・介護予防教室参加者 5 名(増減なし)
- ・平均 19 名参加(登録は 25 名程度)

## 3. サブスタッフ養成事業への参加

- ・今年度受講生 3 名参加、順調に推移
- ・昨年度受講生 2 名はサブスタッフとして市基準型で働いている

## 4. 移動販売車(パン)の立ち寄り提供

- ・地域での移動パン屋さんの需要が増え、現在隔週(月 2 回)

## 5. 玄関横ベンチの設置-近隣住民が毎日利用してくれている

## 6. トイレの貸し出し-時々、散歩中の高齢者や子供が利用

## 7. 介護事業者連絡会への参加

- ・今年度は症例発表会、ボッチャ大会の開催を提案

## 8. 地域包括ケア研究会予防部会(医師を中心とした医療と介護の連携強化のためにつくられた団体)への参加

- ・口腔体操のDVD制作を提案⇒来年度の市の予算請求に載っている
- ・地域の医師たちが介護制度についての知識が少ない⇒医師会を通じて地域の介護関連の情報提供をすすめる

## 9. 地域包括ケアを推進するために必要な基本的な態度

- ① 現在ある介護予防や介護のための資源情報の普及(市民や医療を含む事業者へ)
- ② 医療を含む事業者が具体的に事業として推進する